



Save The Earth

地球温暖化について

地

地球上には暖かい所と寒い所があります。緯度、海流、気流、地形などによってその地域特有の気候があります。現在はその土地の気候に適したような動植物がバランスを保って繁殖し生態系を作り上げています。北海道よりも暖かい九州の方が一般に植物の発育が良いから地球が温暖化するのは良いことではないかと思われがちですが、生態系のバランスはそんなに簡単ではありません。例えば気温が2℃上がったとすると、今までその環境に適合していた植物は数100キロは高緯度方向に移動しなければなりません。山地ならば数100メートルも高い方へ移動しなければなりません。植物は種を飛ばしたり、小鳥が種を運んだりして自分の育つのに適した気温を探していくことができそうですが、成長の遅い植物は、気温の変化に追いつかない場合その場所で絶えてしまうほかありません。氷河時代に繁殖した植物は気温が上がると高山植物として山の高いところにほぼそと種を保っているに過ぎません。そのためには長い時間を要しています。

温暖化の影響は植物だけではなく、九州西海岸の天草のサンゴが長崎まで移動していると言われています。またある種の魚類や爬虫類では卵の時期の温度が性

別を決定する要因になっているとも言われます。例えばアカウミガメは水温が上がると雌が多く生まれるようになり雄雌の比が変わります。アカウミガメはこのため絶滅の危機に瀕しているという学者もいます。

生態系が変わると決まった植物しか食べない動物は生きられないことになりま。地球の温暖化が進むと気象が狂暴化する前に書いたことがあります。2008年に国の環境研究所などの温暖化影響総合予測プロジェクト報告書によると、日本の場合20年あたり約1℃というペースで進んだ場合の試算として、①豪雨の増加に伴う洪水の被害額が2030年に年間約1兆円に達する危険性がある。②斜面災害など土砂災害などのリスクが増大。③雨量が増えて積雪が減るため融雪期に代掻きなどの農業用水が不足する可能性がある。④ブナ林が大幅に減り湿原も減少する。⑤米など農作物の生産敵地が北上し、また収量も変化する。⑥高潮浸水面積が増え河川堤防の強度が低下、地下水位が上昇する。⑦砂浜や干潟の消滅によつて数兆円規模の経済損失の危険性がある。⑧気温上昇による熱ストレス死亡リスクが増え、大気汚染や感染症の分布への影響がある。と報告しています。

気候が変わると病害までが発生しやすくなります。人体に対する影響といえは熱帯病が増え、老人の死亡率が高くなるといわれています。また伝染病も増えるのではないかと考えられます。伝染病はもともと熱帯地方に多いのですが、温暖化によつて熱帯地域が広がれば熱帯の伝染病が広がる可能性があります。特に熱帯地方特有のマラリアが今でも世界各地で増えているということです。マラリアによく効く特效薬が、マラリア菌が薬に対する耐性を持つように進化し、効かなくなっているということです。コレラ、バラチフス、サルモネラ、廣熱病が増えるだろうという心配もされています。

歴史調査の楽しみ方

志口永城跡

12

大田 幸博

(元 菊水町史編纂委員会副委員長)

日 平城跡は、標高342.2mの花牟礼山に築かれた山城です。役場からの高低差は、優に310mもあります。これだけ高いと、登るだけでも、苦勞です。まして、この地に城を築き、守備兵を配置して、維持管理していくのは、並大抵な事ではありませんでした。それでも、敢えて、高い山が選地されたのは、幾つかの理由があります。

①領城のシンボルとして、日々、領民が仰ぎ見ることが出来ました。それが、領主の権威の象徴になりました。とても大事な事です。

②勢力の拠点地として、遠くからでも、敵勢に場所を誇示することが出来ました。同時に、威圧感を与えることにもなりました。

③高いという事が、防禦の最大利点になりました。山深い場所での戦いは、地理に詳しい守備兵の方が、断然、有利です。

れましたが、戦国時代の後半という世情によるものと判断しています。この時の城主であった小森田氏の勢力が、島津氏をはじめとして、外部的な圧力により、極めて、弱体化していたのでしょうか。と言うのもあれだけの城構えですから、短期間に決着がついたのは、どう見ても、おかしいです。

ところが、志口永城跡の場合は、麓集落(中世の城下町)よりも、城地が低い場所ありますから、真逆です。城内の最高所は、標高83.5m、西上の町道とはマイナス3.2mの高低差になります。何度も、広報で取り上げてきましたが、極めて異例なことです。城の性格としては、主として、有事の際の「逃げ込み場」であつたと考えられます。城地は、丘陵地で、標高83.5mありますが、対峙する東方向下の「県道と仁菊水線」方面からも、城地を眺めることが出来ません。領域のシンボルとなり、敵勢に威圧感を与える城ではありません。このように、城にも、それぞれに性格と役目があるよう

です。このように考えれば、県内に、533もの

日平城跡(1郭)



日平城跡(用木地区からの遠望)

中世城跡が存在することが理解できます。日平城跡と志口永城跡は、ともに貴重な文化財遺産です。特に、志口永城跡は、イスラエルとヨルダンを跨ぐ「死海」のようなものです。



志口永城跡(町道からは城跡がみえません。杉木立の下にあります)